

みつけた!

福岡県保育協会通信



By mutual confidence and mutual aid,
Great deeds are done, and great discoveries made;
相互信頼と相互扶助にて、偉大なる行為はなされ、偉大なる発見がなさる。
—ギリシアの詩人 ホメロス

福岡県保育協会会長あいさつ	2
福岡県知事あいさつ	3
福岡県保育士会会長あいさつ	4
第 66 回 筑豊地方保育事業研究大会報告	5
子どもとめぐるこたばの世界	6
みなさまこんにちは「ほいく福岡です」	8
公立発信	9
新園紹介	10
コラム・編集後記	11

公益社団法人福岡県保育協会 会長 万田 康

会長あいさつ



皆さまには残暑厳しい中、日頃より子どもの健全育成に全力で取り組まれていることに感謝申し上げます。

我が国の令和5年の合計特殊出生率は1.20と過去最低となり出生数72万7,277人と8年連続で前の年を下回り、過去最少を更新しております。

少子化は保育業界にとって今後大きな課題となります。

その少子化の流れを止める為政府は、異次元の少子化対策として、児童手当を中心に子育てに係る経済的支援や若い世代の所得向上に向けて取り組み、生まれてくる子どもの妊娠から、出産、育児を通じ、全ての子育て家庭の様々な困難や悩みに切れ目なく応えられる伴走型支援を強化することとなっております。

令和6年度はこども家庭庁の下、こども未来戦略の加速化プランに盛り込まれた施策を着実に進めていく事になるのですが、2026年から段階的に運用を開始し、加速化プランの効果検証を行いながら、2030年初頭頃までにこども・子育て予算の倍増を目指す事となっております。

これらの施策が少子化にどれくらい歯止めができるのかは現時点では分かりませんが、子どもの出生数を本気で増やすのであれば、これから生まれてくる子どもの育ちを支える制度に思い切った財源を投入する必要があります。

また、処遇については保育業界では経営者も含めてまだ全体的に賃金水準が低いと感じています。本当の意味で他産業の平均賃金までもっていくにはまだまだ足りません。

それと同時に今心配していることは、異次元の少子化対策が進められるなど、これだけ国としての予算配分が増え続けると、社会福祉法人も課税対象にするという話が出かねないことです。今こそ社会福祉法人たるものは何なのかということを皆さんがしっかりと認識していかないと、十数年前に出た課税の話がまた出てくるかもしれないと気になっています。

社会福祉法人として、地域貢献活動や保育を通じ

た社会貢献などの責務にとどまらず、営利企業など他の事業主体では対応が困難な福祉ニーズに積極的に対応し、地域社会に貢献するという社会福祉法人全体の意識改革というものがようになってくるだろうと思います。



福岡県知事 服部 誠太郎

知事あいさつ



公益社団法人福岡県保育協会におかれましては、日頃から保育の発展普及活動に大変熱心に取り組まれ、子どもたちの健やかな成長と子育て家庭の支援に多大なご貢献をいただいております。また、保育関係者の皆さまにおかれましては、保育現場の最前線で日々奮闘していただいております。万田会長をはじめ保育に携わる皆さまの熱意とご努力に深く敬意を表し、厚くお礼申し上げます。

昨今の幼児教育・保育の現場でのこどもをめぐる事故や不適切な対応事案を受け、子育て家庭が安心してこどもを預けられる体制の整備が急務となっております。こうした中、政府が昨年12月に閣議決定した「こども未来戦略」において、制度発足以来75年間一度も改善されてこなかった4・5歳児の職員配置基準が30対1から25対1に、また、3歳児の職員配置基準が20対1から15対1へ改善されることとなりました。

これにより、こどもに対する配置人数が手厚くなり、質の向上が図られる一方で、県内の保育所などでは、基準を満たすために必要となる保育士を確保することがますます大きな課題となっております。

県では、今年度から、この新たな職員配置基準に対応するため、短時間保育士の確保に要する人件費への補助制度を創設し、必要な保育士の配置を支援することとしています。また、「保育士・保育所支援センター」を通じて、就業マッチングや保育の魅力発信、保育事業者への巡回支援を行うほか、保育人材の相談窓口において、保育現場における不安に寄り添った支援を行い、離職防止や保育士確保につながる取り組みを進めてまいります。

保育施設などにおける適切な保育の実施のためには、一人ひとりのこどもに寄り添った、より質の高い保育が求められます。県では一般保育研修やキャリアアップ研修などの各種研修に加え、保育所などに勤務する保育士や看護師などの職員を対象とした、障がい児や医療的ケア児への対応を学ぶ研修を実施するな

ど、多様化する保育需要に対応した人材育成に取り組んでまいります。

これに加え、保育士の処遇改善や国が来年度以降実施するとしている1歳児の職員配置基準の改善についても、早期実現に向け、引き続き国に対して要望を行うなど、保育士不足の解消、保育の質の向上を目指してまいります。

こどもは福岡県の未来を担う宝、そしてすべての県民の元気の源です。これからも、こどもが健やかに育ち、子育てを地域全体で支え応援する社会づくりを進めてまいりますので、皆さまのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

結びに、貴協会のますますのご発展と、皆さまのご健勝とご活躍を心から祈念いたします。



福岡県保育協会保育士会 会長 佐保 眞寿美

保育士会会長あいさつ



こども家庭庁が発足して1年が経ちました。

「こどもまんなか社会」を実現するために昨年末に「こども大綱」が閣議決定されました。

「こども大綱」の中には、「『こどもまんなか社会』とは、全てのこども・若者が、日本国憲法、こども基本法及びこどもの権利条約の精神にのっとり、生涯にわたる人格形成の基礎を築き、自立した個人としてひとしく健やかに成長することができ、心身の状況、置かれている環境等にかかわらず、ひとしくその権利の擁護が図られ、身体的・精神的・社会的に将来にわたって幸せな状態（ウェルビーイング）で生活を送ることができる社会である。」と書かれています。

また、幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン（はじめの100か月の育ちビジョン）でも同じようなことが書かれています。「はじめの100か月」というのは、妊娠期から小学校1年生までのおおむね100か月のことで、この時期の健やかな成長はその後の幸せにもつながり、この乳幼児期がとても重要な時期なんだということが、改めて“国”のビジョンとして出されたのはすごく重要なことだと思います。そして、このビジョンでは、乳幼児期のこどもの育ちが大事というだけでなく、こどもを育てている保護者や養育者およびそれを支える保育者や支援者が、社会からその役割を応援され、安心してこどもの笑顔や成長を喜び合うことができる社会を全てのひととともにつくっていくこと」が政府の責務として打ち出されています。

私たちは専門的な立場でこどもの育ちに関わる保育士です。こどもの育ちの質の充実のため、期待される役割を果たすことが求められています。

そんな中、日々の保育の中でどんな姿勢でこども達と向き合っていますか？

日本の保育学者・お茶の水女子大学名誉教授 津守眞先生は「保育者と子ども。そこに能力の差や立場の差はあるけれど、自分の人生を生きる人間同士として見たら、人はみな対等だ。」と言われました。こどもを大人の目線で見えていないでしょうか。

教える事に集中しすぎて、こどもの話を聴いたり話

し合ったりすることをないがしろにできていないでしょうか。

もちろんこども主体の保育を考えるうえで、こどもの目線で見たり、こどもに寄り添って保育している先生も多いと思いますが、「対等な存在」として向き合っているかということは今一度振り返ってみてください。また、変わるのは、相手ではない。「自分が絶対という考えで子どもを理解しようとしたら、そこに知性はない。」と津守先生は言い切っています。そして、本当の理解とは相手を変えるのではなく「自分自身が変わること」にあると言われています。

物事をどうしても自分のものさしではかってしまう所がありますが、「自分が絶対ではないんだ」という意識を持ってこどもと向き合うことで、その子のあるがままに付き合えるのではないのでしょうか。

最後に、保育協会保育士会は、保育の専門集団である全国保育士会の一員として、全国保育士会倫理綱領を踏まえ、令和6年度の重点事業として

- ☆子どもが豊かに育つ質の高い保育の実現
- ☆専門性の発揮できる環境構築
- ☆乳児教育への理解促進
- ☆スキャンボ募金による保育士等への支援

の4つの大きな柱を掲げ、事業を展開しています。

今年度も「こどもの最善の利益」のために、皆さんと共に保育の質の向上を目指していきたいと思えます。



第66回筑豊地方保育事業研究大会報告

田川市西保育所 所長 清川 薫

子どもは国の宝、子どもたちがいきいきと光り輝く日本へ

令和6年6月9日、田川市文化センターにおいて、第66回 筑豊地方保育事業研究大会が開催されました。

新型コロナウイルスの流行に伴い、保育士が集って研修会をすることも、立ち止まらずを得なかった時を経て、ようやく会場に筑豊地方の保育関係者・保育士が一同に集うことができました。

オンラインでの研修が主流になってきている中で、どれくらいの方々に参加していただけるのかという不安もありましたが、当日は雨模様にも関わらず、1000人以上の方々に参加していただきました。

開会式では、たくさんのご来賓の皆様や保育関係者から励ましの言葉をいただき、大変心強く感謝申し上げます。

さて、令和5年4月にこども家庭庁の発足と同時に「こども基本法」が施行されました。

大会の趣旨にもあげられていますが、時代や社会の変化が子どもの生活に大きく影響を与えていることは言うまでもありません。このような中で「こどもまんなか社会」をどのようにつくっていくのか、園における保育は益々重要になります。

コロナ禍で、いろいろな見直しを行ったことと思います。しかし、どの園も制限がある中で最終的にたどり着いた目的は、「子どもたちの笑顔」ではなかったのでしょうか。

本大会では、こんな時代だからこそ、社会が繋がり、“こどもまんなか社会”を築いていくことが私たち保育者の役割だと確認する機会になったのではないかと思います。

事例発表では、「目指せ、頂上！天狗の住む、英彦山へ。」～英彦山合宿は、みんなの手で～と

題して、紅百合保育園 藤本哲子先生がプロジェクターを使って子どもたちのいきいきとした姿を映しながら、発表してくださいました。発表の中で、コロナ禍により改めて検討することで、「行事をすることの意味」「何のために行っていたことなのか」など考えるきっかけになったこと。これまで、園の保育士だけで補えなかったところを保護者の協力を得てできていた行事も、その力の確保が難しいこと。園が大切にしていることの共有でさえも、多様な考え方がある中で難しくなっていることなど、多くの園が抱えている問題が提起されました。

また、会長表彰（一般表彰）では、40名の方々が、その功績を称えられ、会場は温かい拍手で包まれ



ました。そよ風保育園の吉加奈子先生が代表として、万田会長から表彰されると、謝辞で、「子どもたちの夢いっぱい笑顔のために日々努力していきたい。」と力強く述べられました。

そして、本大会で、会場の誰もが待ち望んでいた記念講演が始まりました。新沢としひこ先生が～一緒に歌って体を動かして楽しい時間を過ごしましょう！～『がんばる先生たちのための研修会&コンサート』と銘打って登場すると、会場が一気に盛り上がりを見せました。

忘れかけていたこのライブ感、保育所の現場そのもの。こころが躍る感覚！やらされているのではなく、自然にからだは動く？みんなの笑顔がキラキラしている！ことばだけでは表せない、こころが躍る楽しい時間は、きっと保育の中で子どもたちに引き継がれることでしょう。

新沢先生の代表曲のひとつ「世界中のこどもたちが」では、温かく優しい歌声に包まれて、会場がひとつになり、保育現場でがんばる保育士の心に、たくさんの癒しと勇気をいただいたような感覚でした。

感動の中、いよいよフィナーレを迎えます。

豆絞りを肩にかけ、元気に登場した田川市保育協会のエネルギーな保育士たち総勢106名が、本大会に参加していただいた方々への感謝の気持ちを込めて、炭坑節ならぬ「パラパラ炭坑節」を踊って締めくくりました。

これからの未来は、まさにVUCA（予測不能な時代）の時代になっていくと言われていますが、コロナ禍を乗り切った仲間たちがたくさんいること、こどもをまんなかに考えていける仲間たちが、こんなにたくさんいることに、勇気をいただいた大会となりました。

「子どもがいきいきと光り輝く未来」を切り開くために、筑豊地方の保育関係者が繋がっていくことを心から願います。



大阪大学大学院 人間科学研究科 助教 萩原 広道

『子どもとめぐることばの世界』



●はじめに

こんにちは。大学で「子どもの発達」について研究している萩原広道と申します。現在は、「ことば」を中心に、いわゆる発達の基礎研究をしています。研究者として大学に身を置きつつ、これまで作業療法士・公認心理師として子どもの発達支援にも携わってきました。

今年3月に、ことばの発達に関わる学術的な知見を紹介する書籍『子どもとめぐることばの世界』を刊行しました。今回は、その内容についてご紹介したいと思います。

●「見逃し配信」できないことばの発達

私たちは、ふだん当たり前のように使っている「ことば」を、いったいどのように身につけてきたのでしょうか。この文章を読んでいるみなさんも、かつて子どもだったころには、ことばを理解したり話したりすることはできなかったはず。でも、どうやって「ことばのない世界」から「ことばのある世界」へとやってきたのか、その道のりは記憶の彼方。思い出すのは至難の業ではないでしょうか。

しかも、ことばの発達は「いつの間にか」「あっという間に」次の展開へと移りいでしまうので、子どもと日々接している方でも、ことばの発達のなかで起こるさまざまなハイライトシーンを、ついつい見逃してしまうことも多いのではないかと思います。

本書は、そんな「ことばの発達」に目を向けて、その過程に詰まったさまざまな不思議や魅力に迫るツアーガイドブックになります。子どもの小さな頭と身体、そしてその周囲でなにが起こっているのか、ことばの発達の「舞台裏」をめぐること、子育てや保育・教育・療育にきっと新しい楽しさとおもしろさが見つかるといいな。そういう思いで執筆しました。また、ことばの発達の「舞台裏」ツアーをめぐること、読者のみなさんがかつて辿ってきた旅路がいかにスゴイもので、興味深いものだったかを再発見するきっかけにもなるかもしれません。メイキング動画などで舞台裏を知っていると、映画や絵画を鑑賞するの

がもっと楽しくなりますよね。同じように、ことばの発達の意識されない舞台裏を知ることで、子どもたちの世界がもっと鮮やかで、彩り豊かに見えるようになるかもしれません。

●多層的で多面的な「ことばの発達」

ひとくちに「ことばの発達」といっても、実はそこにはいろんな側面が含まれています。「ことば」というシステムは、さまざまな構成要素から成り立っているからです。たとえば、母語の音を聞き分けること、口や手を使ってことばを発すること、単語の意味を適切にとらえること、単語同士をつないで文をつくること、相手や状況に合わせて適切に表現を選ぶこと、などが含まれます。これらを体系的・網羅的に紹介しようとすると、きっと教科書や辞書のような本になってしまうでしょう。

本書では、多くの人が当たり前のように身につけている「ことば」の不思議に、発達という視点から改めて向き合っていきます。その過程で、ことばの発達に詰まった魅力やおもしろさを読者のみなさんと気軽に分かち合うことを目指します。そのため、本書ではあえて、取り上げるトピックをググッと絞って、筆者自身の研究や関心、体験に寄せながら、ことばの発達の「舞台裏」ツアーを企画してみました。その方が、筆者自身の熱量や「これっておもしろくない？」という気持ちが読者のみなさんにも伝わりやすく、そのぶん本書をより楽しんでいただけるのではないかと考えたからです。

●ことばの発達「舞台裏」ツアー

本書は、3つのツアーで構成されています。ひとつめは、ことばの発達の全体像をおおまかにつかむためのツアー「ことばの発達を広く眺めてみよう」です。ひとくちにことばの発達といっても、その内容は実に多岐にわたります。このツアーでは、それらを「音韻」「語彙」「文法」「やりとり」という4つの切り口に整理しながら、それぞれの切り口に関連する具体的な学術的知見を紹介します。



『子どもとめぐることばの世界』

萩原広道 著

2024年3月22日刊行

ミネルヴァ書房

定価 1,980円(本体 1,800円+税)

ISBN : 9784623097210

冒頭の試し読みができる出版社 web サイトはこちら

<https://www.minervashobo.co.jp/book/b640759.html>

出版社サイト



文献リスト

ふたつめのツアーは、「子ども独自のことばの世界に飛び込んでみよう」です。このツアーでは、ことばの発達をめぐり切り口のなかでも、特に筆者の研究や関心に寄せて、大人とは違う子どもの独特なことばのどらえ方や、その発達のな変化に迫ります。鉄棒のことを「ブランコ」と呼ぶ、傘のことを「雨」と呼ぶ、「鼻」という単語を鼻以外にもブーツの爪先やハンカチに対しても当てはめる、といった事例が登場します。

そしてみつめは、「ひらかれたことばの発達研究を目指して」というツアーです。ことばの発達をめぐり学術的な知見は、発達研究全体のなかでどのような位置を占めるのか、また、それらは子育てや保育、教育、療育といった実践とどのように結びつくのか。こうした事柄について、2人のゲストとの対談を通して考えていきます。なんと、ゲストのおふたりはどちらも福岡県にゆかりのある方々です。ひとりめのゲストである檜崎雅さんは、糸島市にあるるんぴにこども園の園長先生です。ふたりめのゲストで、京都大学大学院文学研究科・准教授の森口佑介さんは、福岡県がご出身だそうです。なんとという偶然……!!

●肩の力を抜いて、気軽な気持ちで読んでみてください!

本書を通じて、子どもという身近な他者がくり広げている大冒険を、そして、あなた自身がかつて辿ってきた発達の軌跡を、ぜひ楽しくめぐってみてください。「研究者が書いた本だから」と気を張らずに、ぜひ肩の力を抜いて、気軽にお読みいただければ嬉しく思います。いわゆる「学術書」といえば、真面目に読まなきゃいけないとか、最初から最後まで読み通さなきゃいけないとか、そういう謎のプレッシャーを感じてしまうかもしれません。でも、本書はそういう「お勉強モード」で読む必要はまったくありません。ご飯やおやつを食べながらとか、ベッドで寝転がりながら読んでいただいても(少なくとも私は)まったく気にしませんし、ちょっと興味のあるページだけつまみ食いのように読んでいただくのもOKです。

忙しい読者のみなさんのサポートになるように、本

書では、トピックごとのまとめポイントとして「案内ボード」を提示したり、イラストをたくさん使ったりして、少しでも読むことへの負担が少なくなるように工夫してみました。また、さしあたり学術的知見だけを知りたいという方のために、知見そのものと、その知見のベースになった研究手法の話とを区別して記載するようにしました。研究手法は「どうやって調べたの? — 研究の舞台裏」という形で囲み記事になっているので、時間がなくてとにかく結果だけ知りたいという方は、この部分は読み飛ばしていただくことも可能です。

反対に、学術的な知見についてもっと学びたい! という方もいらっしゃるかもしれません。そういう方のために、本書では読書案内や、参考文献リストも充実させました。さらに、これらはオンライン上で無料で閲覧することができます。ぜひ、興味のある箇所についてはさらに深掘りしていただけると嬉しいです。

●さいごに

発達研究は、研究に協力してくださるお子さんや保護者のみなさん、園の先生方がいなければ実施できません。学生の頃を含めて、私自身多くの方々にご協力いただきました(福岡県にある園にもご協力いただいたことがあります!)。ずいぶんと時間がかかってしまいましたが、ようやく、ご協力くださったみなさんに(ささやかですが)お返しできるものができたと感じています。

子どもがことばを身につけるなかで見られる隠れたクライマックスやハイライトシーン、そして、子どもに関わる他者が提供する知られざるフィンプレーなど、ことばの発達をめぐり不思議が次々と浮き彫りになり、読者のみなさんに楽しんでいただけたらとても嬉しいです。

こんにちは、
『ほいく福岡』です！

利用料
無料

『ほいく福岡』とは、福岡県保育士・保育所支援センターの愛称で、福岡県が運営している保育人材のための総合支援サイトです。求職者・求人者・有資格者、それぞれの方が利用できるシステムですので詳しくは下記をご覧ください。

1 求職者向け

【就業支援】専属のコーディネーターが1人つき、紹介から成約までお手伝いします。

- ・求職者登録 ・見学・面接の調整
- ・求人紹介 ・保育1日体験研修
(保育現場を体験していただくための事業です。毎年6月から2月まで実施しています。)

【相談窓口】保育人材支援相談員による保育所(園)で働く方の相談対応。



2 求人者向け

【発信サポート】求人者としてほいく福岡に登録いただくと、下記の発信ができます。

- ・ほいくの魅力 *ご登録の際には福岡県保育士・保育所支援センターへ電話をお願いします。
- ・求人掲載 *求人取り扱いの範囲は福岡県または市町村から認可を受けている保育所、認定こども園、地域型保育事業所となります。

【相談窓口】保育人材支援相談員による施設管理者の相談対応。

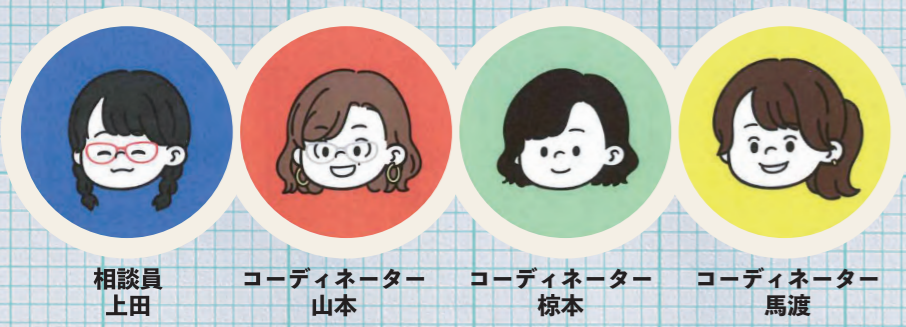
3 保育士資格を有している方向け

保育士有資格者登録をしていただくと、処遇改善等加算の適用要件となるキャリアアップ研修受講歴の管理ができます。

*ほいく福岡で出力されるキャリアアップ受講歴は修了証の代わりとはなりませんが、処遇改善加算の申請に使用できます。

保育 協子 様 2025/01/01 現在

取得年度	修了分野名	修了証番号	修了証発行日	研修実施機関名
2024	保護者支援・子育て支援	0000 00000000	2024-01-01	福岡県保育協会
2025	保護者支援・子育て支援	0000 00000000	2025-01-01	福岡県保育協会



私たちが
支援いたします！

相談員 上田 コーディネーター 山本 コーディネーター 棕本 コーディネーター 馬渡

福岡県保育士・保育所支援センター 092-582-7955
保育人材支援相談員 相談専用ダイヤル 092-710-0521

公立発信

一人ひとりを大切に

豊津保育所 所長 能方順子



<はじめに>

みやこ町は、福岡県の北東部に位置する町です。比較的温暖な気候に恵まれ豊かな自然とのかな田園風景が広がっています。豊前国府・国分寺跡をはじめとした多くの文化遺産がある風光明媚な町です。

みやこ町には、私立保育園2園、認定こども園5園(内幼稚園型1園)、公立保育所2園の計9園があります。

<町としての対策>

みやこ町は、子育て支援の町として、保護者の経済的負担の軽減、子育てしやすい環境づくりを進めていっています。すべてのこどもに対し、母子保健・児童福祉の両機能の一体的相談支援を行う「こども家庭センター」が設置されました。また、みやこ町に在住しているこどもたちの、保育料の完全無償化と副食費の補助や18歳年度末までのこどもの医療費の一部負担など様々な支援が行われています。

<関係機関との連携>

◎みやこ町保育協会会議

町内9園の園長・所長が集まるみやこ町保育協会会議が、月1回行われ、役場の担当課の職員も参加しています。保育所間での情報交換などが行われます。

◎公立2園会議

みやこ町保育協会会議後に、公立2園会議が行われ、所長、主任、担当課の職員に加え、保健師等も参加し気になる子の情報共有をしています。

◎巡回相談

専門員や保健師の方に、集団生活の様子を観察してもらい、こどもの苦しさや気になる部分を助言していただきます。その後、関係機関へとつなげます。園のこどもたちが関わっている専門機関とは連携をとり、かかわり方など学んだことは職員会議などで知らせ、共通認識を持って保育を行っています。

◎小学校との連携

毎年、就学先の小学校と連携し、新入児連絡会を入学前に行なっています。今年度新たに保幼小情報交換会が開催されました。今回は入学後の情報交換会でした。年長時の担任が1年生の授業を参観し、

こどもたちの小学校での成長した姿を見ることができました。その後の交流では、気になる子どもの小学校での様子を尋ねたり、1年生の担任からの質問に答えたりと有意義な交流ができました。

また、同じ校区の小学校からは2年生や5年生が授業の一環として来園し、卒園児たちが成長した姿を見せてくれます。

◎中学校との連携

職場体験や授業の一環として中学生が来園し、親しみを持って保育所のこどもたちと交流しています。

小中学校と連携することにより、一人ひとりのこどもたちの成長を見守ることが出来ます。こどもたちは、久しぶりに訪れた保育所に懐かしさを感じるようです。職員も、大きくなって成長した姿を見ることができ喜んでます。保育所のこどもにとっても、普段とは異なる貴重な体験ができる機会となっています。

<園の取り組み>

職員会議とは別に月1回全クラスの担任と保育会議を行い、クラスの現状や気になる子について話したりしています。

また、一人で悩みを抱え込まずみんなに相談できる場としても活用しています。意見交換することで新たな視点から考えることができたりしています。

同じ町立の久保保育所と合同で、年2回気になる子の勉強会を開催しました。研修会などは、全員参加が難しく、数名が参加し職員会議で報告したり報告書の回覧をしたりしています。希望者が多く参加できるように調整を行ったので、勉強会には、ほぼ全職員が参加でき共通理解が進み職員間で同じ目線で保育を進めていく良い機会となりました。今後もこのような勉強会を開いていきたいと思ひます。

<おわりに>

みやこ町では、人口減少や少子化が進みつつあります。妊産婦からの切れ目のない支援がなされていくので、少しでも歯止めがかかればと思います。

保育所に通ってくるこどもたちが、一人ひとり大切にされ、最善の利益が受けられるよう今後も保育していきたくと思ひます。

～筑豊の象徴 ボタ山を背に～ 飯塚市立穂波東保育所

飯塚市立 穂波東保育所 所長 大谷 小夜子

新園 紹介



遊戯室



新園舎



えほんコーナー



給食見学コーナー

はじめに

飯塚市立穂波東保育所は、穂波地区の平恒保育所と楽市保育所の2園が統合し、令和6年4月1日より開所しました。当園は飯塚市のほぼ中央に位置し、嘉麻市、桂川町に隣接しています。近くには八木山バイパスが通り、福岡市へのアクセスも良いところです。また、園舎の背景には、筑豊の象徴でもある緑豊かなボタ山があり、近隣は住宅が建ち並ぶ静かな環境です。

穂波東保育所は

ボタ山の緑を背景に、白を基調としたシンプルでスタイリッシュなデザインの園舎は、2階部分に保育エリアとして保育室があります。中庭とえほんコーナーを囲む廊下は、保育エリアを一周できるようになっています。

えほん コーナーは、えほんの森をイメージして環境を整えました。こども達が、たくさんの本に出会い、様々なことに興味を持つことができるよう期待しながらえほんを選びました。本に囲まれ、ゆったりと過ごすことができるスペースとなっています。

コンパクトな中庭には、人工芝を敷き、どの年齢の子も裸足で遊び、楽しんでいます。

1階部分には給食室と遊戯室があります。「食育」の観点から給食室の調理の様子を見学することができる見学スペースがあり、調理風景を見学することで、「食への関心」が高まることを期待しています。

遊戯室は、広々としていて、行事や日頃の遊びの場として、また、感覚統合リトミックに日々取り組む場として、自由で開放的な空間となっています。

保育理念

飯塚市立の保育所、こども園では、「一人一人の子どもを大切に、豊かな感性と創造力を培い、未来を拓く、たくましい子どもを育てる」ことを目指して保育を行っています。

column

わくわくは 繋がっていく!

まずは自分が 思いっきり楽しもう

社会福祉法人 知新福祉会 垂見保育園 園長 大橋真一

【好奇心のトビラを開ける】

「ねえ先生、ナニして遊んだらいい？」都市伝説だと思っていたこの言葉を聞いた時は耳を疑いました。「あなたが好きなことをしたらいいんじゃない?」「う～ん、分かんない」

でも、そうだね。走ったらアブナイ。高い所はアブナイ。虫はキタナイ。どろんこはヨゴレル。そして最後はケガしたら誰が責任をとるんですか?

保育園でも安心安全、危機管理が最優先事項になっています。もちろんとても大切なことです。しかしながらそれは冒険心や好奇心とは真逆のところにあるように感じます。そのトビラが開けにくくなったのであれば、私たち大人がその鍵をあけてあげることが責任なのかもしれません。

地域の行事でお正月のしめ縄作りがありました。藁の山を目の前にしても大人しくしている子ども達。え?こんなものが目の前にあったらなんかわくわくしない?こうやるんだよ!と私が先陣を切って山に飛び込みました。あとはみなさんのご想像通り、投げあたり藁の中に潜ったりとしっかり子どもらしさを発揮していました。ほら、藁で遊んだら体がチクチクするでしょ?それお風呂に入ったらチクチクしなくなるからね。

【大人も子どもと一緒に楽しむ】

昨今のキャンプ(アウトドア)ブーム。子ども達にとってはとても素晴らしいことだったのではないのでしょうか?何より大人も子どもと一緒に楽しくなることと、そして色々な経験ができることがいいですね。

子ども達と一緒に焼き火料理をしていた時のこと。半ズボンで来ていた子どもが、足が熱い熱いと言いながら野菜を混ぜていました。また鉄のフライパン(スキレット)を素手で触ろうとしたので慌てて止めました。

炎に直接触らなくても熱いこと。鉄は赤くならなくても熱い



こと。身を持って経験できたことは財産になりますね。これが危機管理能力に繋がっていくと信じています。この時の少し焦げた焼きそばが今まで食べた中で一番美味しかったそうです。自分で作るってそういうことなんですよ。

【自分たちが一番楽しむ】

昨年10月のこと。

「園長先生、今度の健康まつりの出し物ですけど何をやりませんか?」

柳川市で行われる健康まつりで、そこにやって来る子どもたちを対象に手遊び、紙芝居、絵本読み聞かせ、パネルシアターなどの出し物をやることになっていました。「おもいっきり面白い方に振り切っていこう!!」私からの指示はそれだけです。あとは職員間で話し合って決めていきます。どうしたら面白いのか、どうしたら子どもたちが喜ぶのか。わくわくしながら考えてくれたことでしょう。準備の時からずっと笑いが絶えなかったそうです。園長の私も負けません。紙芝居ならあの自転車にあの衣装でしょ!実際に本物を見たことはなかったのでインターネットで調べながら徐々にイメージに近づけていきます。

近所の自転車屋さん、大工さんもなんだか楽しそうだから手伝うよと言ってくれました。わくわくが色んな人と繋がっていく瞬間です。そうやってみんなで作り上げたステージで、出し物をやっている時間は本当に楽しかったです。見てくれている人たちにも、その楽しさが伝わっていたら幸せですね。出番が終わって達成感と幸福感の中みんなで食べたランチが美味しかったこと。自分たちが一番楽しむってこういうことなんですね。

そしてまた、健康まつりの時期がやってきます。今回はどんなことをやろうか、もうわくわくがとまりません。そして、ランチの予約を忘れないようにしなくては。

先日、私立保育園連盟全国調査部長会議に出席しました。全国から62名の先生方が参加され2日間、保育の現状と課題について様々な問題提起や議論が行われました。福岡県保育協会に調査部はありませんので、広報部員である私がこの会議に参加することになったのですが、調査部で活動される先生方の熱量に圧倒されました。少しずつ内容が具体化しつつある「こども誰でも通園制度」を見てわかるように、就労要件がない家庭の子どもを保育することは我々にとって様々な意味を持つこととなります。これまでよりも更に保育の専門性が問われる上、その発信もしていく必要があると感じます。

この会議の記念講演で京都教育大学の古賀松香先生は専門性について、「保育現場において実践のその時には言語化されないものがほとんどであるが、事後に省察することを通して、身体と状況が絡み合う中で体感していたことを言語化し捉え直そうとすること」と定義されていました。

「振り返り」「言語化」「発信」、今後の広報部の活動において大切なワードとなりそうです。3期目の広報部委員をお引き受けすることになりました。様々な課題に対して答えを見つけることはできませんが、疑問を大切にしながら活動させていただきます。よろしくお祈りします。

飯塚市 常葉保育園 森山紹人

発行日 令和6年10月21日
 発行者 万田 康
 編集者 塚本 泰有
 発行元 公益社団法人
 福岡県保育協会
 春日市原町3-1-7
 TEL 092-582-7955
 FAX 092-582-7956

[全私保連推奨] 各種団体保険制度



有限会社ゼンポ



公益社団法人
全国私立保育連盟



東京海上日動

ほいくのほけん・こどもえんのほけん

保育施設向け 4月1日～1年間 (中途加入可能)

Web
加入
可能

「園賠償責任保険」「園児団体傷害保険 (学校契約団体傷害保険)」「職員団体傷害保険 (総合生活保険)」など、保育施設における最大リスクを補償する1番の主力保険制度です。

やくいんのほけん

社会福祉法人向け 8月1日～1年間 (中途加入可能)

Web
加入
可能

社会福祉法人の役員の業務遂行に関する賠償リスクやマスコミ対応費用等のレピュテーションリスクに加えて、雇用関連トラブルによる法人への賠償リスクもオプション付帯可能な保険制度です。

えんじのほけん

在園児向け商品 4月1日～自動更新 (中途加入可能)

Web
加入
可能

「園内外問わず24時間お子さまをお守りする傷害保険」「扶養者に万が一の場合の育英費用補償」など手厚い補償内容に加え、一般的な保険商品と比較して約65%の割引となっているため非常に割安な保険制度です。

しょうがくせいほけん

卒園児向け商品 4月1日～自動更新 (中途加入可能)

Web
加入
可能

24時間のおケガ等からお守りに加え、学校からの貸出タブレットを含め個人賠償責任保険など卒園後のリスクを補償します。本商品も一般的な保険商品と比較して約30%の割引となっているため割安な保険制度です。

取扱
代理店

有限会社ゼンポ

TEL: 03-3865-3881
FAX: 03-3865-2806



引受
保険会社

東京海上日動火災保険株式会社

担当課支社: 公務二部 文教公務室 TEL: 03-3515-4134

このご案内は施設賠償責任保険・生産物賠償責任保険・学校契約団体傷害保険特約付帯傷害保険・会社役員賠償責任保険・レピュテーション費用保険 (レピュテーション費用特約非付帯 費用・利益保護)・雇用関連賠償責任保険の概要・団体総合生活保険 (傷害保険) の概要についてご紹介したものであり、全ての事項を記載しているものではありません。保険の内容は各保険制度のパンフレットをご覧ください。また、ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。詳細は契約者である公益社団法人全国私立保育連盟にお渡しする保険約款により、ご不明点がありましたら、取扱代理店または保険会社までお問い合わせください。

連絡先



公益社団法人全国私立保育連盟指定 東京海上日動火災保険株式会社代理店

有限会社ゼンポ

TEL 03-3865-3881
FAX 03-3865-2806

〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10 全国保育会館4階

無制限の動画や写真を通して、園と保護者の絆を深める連絡アプリ

全国私立保育連盟推奨 (総代理店)



きっずノート

「きっずノート」は長く使い続けていただけるよう

初期費用0円・追加料金一切なし

すべての機能使い放題

月額 5,500円 (税込) のみ

無料体験実施中!

お申し込みは
コチラ



ご相談・ご質問はお気軽に
きっずノートサポートセンター

TEL 03-3865-3886